

止水方式におけるヒラメ初期飼育水の細菌相

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2025-04-24 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 阪本, 憲司, 高橋, 庸一, 岡, 雅一, 板垣, 恵美子 メールアドレス: 所属:
URL	https://fra.repo.nii.ac.jp/records/2014489

This work is licensed under a Creative Commons Attribution 4.0 International License.



止水方式におけるヒラメ初期飼育水の細菌相

阪本憲司・高橋庸一・岡 雅一・板垣恵美子

ヒラメ浮遊期間における、止水飼育（止水区）と流水飼育（流水区）の細菌相の差と経日変化を ZoBell's 2216e 培地と TCBS 培地を用いて調べた。ZoBell 培地に出現した総細菌数と菌株数は、止水区でそれぞれ 10^6 CFU/ml・12 株および流水区でそれぞれ $10^3 \sim 10^5$ CFU/ml・16 株であった。両区に共通して出現した優占菌は、*Aeromonas* sp. と *Pseudomonas* sp. であった。また、TCBS 培地に出現した細菌は、止水区で 5 株、流水区で 7 株であった。本試験の結果から、出現した菌株数が少なく、しかも優占菌の菌数が多い止水飼育が細菌相の安定性の面で優れていると考えられた。

栽培技研, 27(1), 1-5, 1998